

ティーチングポートフォリオ

佐賀女子短期大学

地域みらい学科

氏 名 張 允 麿

1. 教育の責任

韓国語文化コースの学習者は特性化した交換留学やダブル・ディグリープログラムを希望する90%以上になっている。留学の最低の条件が韓国語能力試験の第1級或いは第2級の取得である。したがってダブル・ディグリー・プログラム留学や交換留学を目指している学習者のために、韓国語能力試験(TOPIK)の初級(1級・2級)合格を目指した授業を設けている。

また、留学時に日常生活や大学の授業内容の理解などで必要な韓国語能力を問う問題が多いため、多くの関連語句について持続的な学習を行う。予習時間60分以上、復習時間60分以上を促している。

2. 教育の実施における理念

韓国語学習は国立国際教育院で実施する韓国語能力試験の応募者が増え続けている。現在韓国内約60か所、海外86か国250か所を超える地域に拡大されている。試験に関する情報に乏しい学習者のために試験の種類、級別の必要な学習時間、学習内容、試験の趣旨などが理解できた状態で始められるようにする。

①言語面:級によってレベルに合わせた語句を習得し、出題の形式によってドリルをする。それから模擬試験や過去問を開設しながら弱いところを補う方法で進める。韓国語学習に向上心が持てるように指導する。

②多文化共生社会の理解:自文化と多文化との差異から偏見を持たないように韓国文化の理解度を高める。多文化共生を暮らすための正しい認識や判断力が持てるように指導する。

③学生としての守ること:しっかり学習のための授業への出席や積極的な発表、アクティビティを行うように認識させる。また、予習や復習、課題を締め切りまで終わらせて提出することを伝える。

この教科の教育課程を通した言語だけではなく、社会に対する問題意識や多文化共生の視点を踏まえた横断的な教育活動を行う。

3. 教育の方法

2023年度はコロナウイルス感染予防対策をとりながら、対面授業が行なわれた。

模擬試験を教材とし、PPTを用いて問題解説や問題解答において必要な注意点を主に授業内容に取り込んでいた。E-learningシステムを通して単語テストや小テストを行った。模擬試験もコンテンツとして準備し、何回でも自分の実力を試せるように提供した。

単語学習においては無料で使える学習アプリ(Quizlet)に学習内容を入力して学習者がスマートフォンでも学習できるように指導した。

TOPIKレベルアップ1の授業内容は簡単な生活で使える実用的な文章を理解できるように授業を構成した。昨年より作文の練習や作文問題の問題解決に必要な過程をくりかえし、身につけられるように促した。教室内で指名して文章を読み上げて意味まで発表させ、フィードバックする方法で進めた。PPT資料には聞き取りの場合は音声を一文ずつ編集し、学習者に一文ずつ音声と文字を確認しながら作成している。漢字語や同音異義語も関連して説明していった。E-learningシステムを通して補習した模擬試験の解説映像も確認できるようにコンテンツとして掲載した。例年より前期でTOPIK1試験を受けた人が多かったので、TOPIK2の作文の問題解説を加えながら問題解決の方法をトレーニングした。

4. 教育の成果

韓国語能力試験1級～2級までの実力を備え、韓国語能力試験に出題される単語・文型などを覚え、使用することができた。

韓国語文化コースのディプロマポリシー(1～3)に基づき、定められた評価基準(①～⑥)をほとんどの学習者が達成できている。授業や行事等に積極的に関わり、自主的に学習していく姿勢・態度を身に付け、母国語以外の言語やツール(言葉以外)を使って、コミュニケーションを取ることができ、多文化共生社会に対する基礎的な知識が身についている。成績評価の結果は秀9名・優3名・良1名・可2名・不可1名である。学生による到達度評価は学習者の75以上が4以上の自己評価をしている。学生の満足度(授業アンケートの評価結果)総合的評価は学習者の65%以上が4以上の自己評価をしているので、少しゆっくり進める必要がある。

5. 目標(今後の課題)

コロナウイルス感染予防がつづく現状でe-learningのコンテンツを増やし、より高いレベルに合格できることを目指せるコンテンツを提供したい。留学生活の円滑な過ごし方につながる表現をも学習でき、韓国大学での授業内容をしっかり理解し自分で課題をやり遂げるレベルまでの学習を指導していく。そこに必要な情報取得のための新聞記事やニュース、社説などが理解できる授業構成をし、学習効果のために少し工夫が必要である。ただもんだ点として残っているのはクラスの中でレベルの差がかなりあったので、次年度からはプレースメントテストを行う予定である。